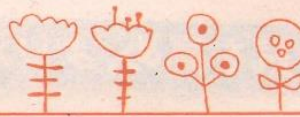




山田養蜂場主催
第6回

ミツバチの一枚画コンクール

入賞作品発表



豊かな自然環境の中で、私たちと同じように、助け合って生きている小さなミツバチ。
ミツバチを描きながら「自然環境の大切さ」「助け合うことの大切さ」「いのちの大切さ」など、私たちが日ごろ忘れがちな「大切なもの」を見つめなおしたい。
そんな想いから、ミツバチをテーマにした一枚画のコンクールを開催しています。
第6回は、全国から20,508点、海外から388点もの応募をいただきました。ここに、多くの力作の中から選ばれた、入賞作品を発表いたします。

(敬称略)

中高生の部 (中学生)



大賞

「通学路のコスモスとみつばち」
奈良県 宇陀市立榎原中学校 3年
徳永 聖弥



入選

「みつばちのお花見」
高知県 高知市立愛宕中学校 1年
森本 晴菜



優秀賞

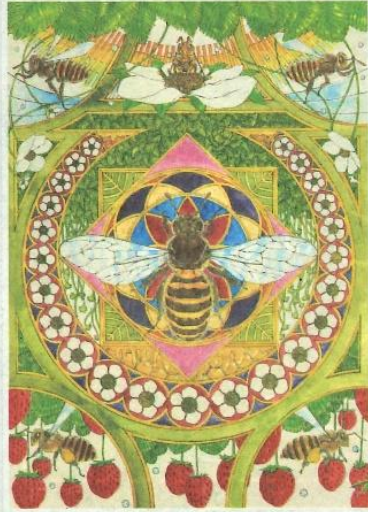
「梅のかおりに誘われて」
徳島県 吉野川市立鶴島第一中学校 2年
前田 雪乃



入選

「秘境」
神奈川県 横浜市立青葉台中学校 3年
白砂 有佳子

中高生の部 (高校生)



大賞

「もちつもたれつ果実はちみつ」
兵庫県 兵庫県立明石高等学校 1年
岩田 順喜



優秀賞

「希望ある未来」
福岡県 福岡県立太宰府高等学校 3年
城戸 碧



入選

「命を芽吹く者」
兵庫県 兵庫県立錦城高等学校 1年
新谷 幸生



入選

「家族とミツバチ」
栃木県 栃木県立今市高等学校 3年
斎藤 豪海

幼児の部



大賞

「みつばちさんのおさんぽ」
福岡県 甘木幼稚園 3歳
吉武 咲彩



優秀賞

「おいしいミツのあるお花はどこかな?」
兵庫県 夢の星幼稚園 6歳
金澤 凜奈

小学生の部 (1-3年生)



大賞

「たんぼの花にやって来たミツバチ」
高知県 高知市立瀬江小学校 3年
岡村 菜奈



優秀賞

「おいで、ミツバチさん」
静岡県 浜松市立北浜南小学校 3年
阿知波 ハル

小学生の部 (4-6年生)



大賞

「大好きなイチゴの畑みつありがとう」
兵庫県 明石市立二見西小学校 5年
飯田 凜



優秀賞

「宇宙ばち」
埼玉県 さいたま市立本太小学校 4年
宇賀神 啓介

一般の部



大賞

「カモミール」
福岡県 飯塚市立飯塚小学校 1年
相原 啓一



優秀賞

「花はどこへ行った?」
兵庫県 姫路市立西宮小学校 3年
濱崎 宣子

海外作品 (優秀賞)



ベトナム ヌイチャー
「Bees in Nature」
カンボジア 11歳
ソセ セーフナス
Sose Serphynase



ベトナム ヌイチャー
「Bees in Nature」
カンボジア 11歳
ユウ フェリウドゥ
You Pharydouh



ベトナム オフビエス アンド ウォーター
「View of Bees and Water」
カンボジア 13歳
キェン チェア
Kean Cheanea

中高生の部の「佳作」、小学生の部、幼児の部と一般の部の「入選」「佳作」「特別賞」、「団体奨励賞」の詳細につきましては、右記のウェブサイトで発表いたします。

山田養蜂場のホームページで入賞作品がご覧になれます。

ミツバチの一枚画 検索

<http://beekeeper.3838.com>



第6回ミツバチの一枚画コンクール 審査員の感想

審査委員長

佐々木 正己 玉川大学名誉教授

ミツバチに対する愛情や自然を大切にしたいという思いが伝わってきて、嬉しい限りです。視点の広がりや手法の多様化も見てとれます。中でも、絵の迫力という点では、中学生の皆さんの作品が光っており、圧倒されます。以前に入賞した方の絵が、同じ方とは思えないほど違った視点で描かれているものもあり、感心しました。

今森 光彦 写真家

今年も数多くの力作を拝見いたしました。ミツバチの生態をリアルに描いたもの、デザイン的に処理されたセンスあるもの、絵本の世界に誘い込まれるようなメルヘン調のものなど、本当にバラエティーにあふれていました。ミツバチは、特別みんなに愛されている生き物だということが伝わってきます。

結城 昌子 アートディレクター・エッセイスト

ミツバチが主役の作品に加え、日常風景の中に何気なくミツバチが登場する作品や、養蜂場を描いた作品もありました。人間とミツバチが仲良く共存していることに改めて感動しました。最終選考に残った作品は、どれも「私を見て」と力強く語りかけてくるようで、試行錯誤しながら描ききる情熱が伝わってきます。

山田 英生 株式会社山田養蜂場 代表取締役社長

限られたテーマであるにも関わらず6年間で14万点を超える沢山の作品を応募いただきました。それだけでも驚きなのに、毎年、前年を上回る斬新な作品が集まることに感動しています。ミツバチは環境と共生し、自然を豊かにしてくれる不思議な生き物です。姿形を観察するだけでなく、その生態まで調べてみてください。ミツバチを好きになると、さらに魅力的な作品が描けると思います。

脇阪 嘉明 朝日学生新聞社 代表取締役社長

工夫を凝らした作品の多さに驚かされました。ミツバチを中心に置いた作品や魚眼レンズで覗いたような作品、俯瞰したような作品など、観察力を生かした作品が目立ちました。地球温暖化が年々進み、生き物が住む環境は悪化し、地球が悲鳴をあげているようです。そんな中、小さなミツバチを通じて、環境に関心を持っていただきたいと思います。

主催：株式会社 山田養蜂場
共催：朝日学生新聞社

後援：玉川大学ミツバチ科学研究センター、国際児童図書評議会
日本国際児童図書評議会 JBBY、JHP・学校をつくる会



この活動は、文部科学省の生涯学習の一環として行っております。



山田養蜂場は、こどもエコクラブを応援しています。

